

2023.9.25 新湊川公園の植生管理（剪定・除草）記録

樹木医 藤原春善

1, 日時：令和5年9月25日9時30分集合 晴

2, 場所：新湊川公園

3, 活動人員

Sooo Good ながた2人、福祉活動員5人、地元ボランティア3人、樹木医1人

4, 内容

(1), ソメイヨシノの生育状況と管理

- ・梢端枯れ・異常落葉：今年の異常高温、乾燥により生じたものがほとんどであった。
対策：病害虫枝、重なり枝等の剪定処理と直径3cm以上の幹・枝の切口には殺菌剤を塗布する。
洞吹き、ヤゴについて、日が当たらないところのものは、剪定処理した。
コスカシバは、半透明のヤニ、虫糞の排出口から針金、爪楊枝等を用い幼虫を殺虫する。ヒロヘリアオイラガは、生きた繭、抜け殻は、触れないようにそぎ落とした。

(2), クロマツ、エノキ、ケヤキ、アラカシ、センダン、イロハモミジ、ナンキンハゼ、シンジュ（ニワウルシ）、トウネズミモチ等高木の生育状況と管理

- ・クロマツについては、前回混み枝、重なり枝、病害虫枝、枯れ枝等を剪定処理して風通しを良くした。
- ・エノキについては、郷土種、生物多様性の木のため大切にしたい落葉高木である。徒長枝、枯れ枝、重なり枝等軽度の剪定を行うこととした。実生については密な場合間引くこととした。
- ・ケヤキについては、剪定されたものに一部心材腐朽が進みつつあったが、ほぼ健全であった。支障木化しそうな木については、軽度の剪定処理することとした。
- ・アラカシについては、枝が密につきウドン粉病等の発生しているものは、枝を透かし、風通しを良くするための剪定処理を行った。
- ・センダンについては植栽されたものでないが郷土種として適正に剪定し残すことにした。
- ・イロハモミジについては、梢端枯れが見られ、水不足が著しいため、水をやり、水鉢を作る必要があった。
- ・ナンキンハゼ（中国原産）は植栽されたものと、実生が広がったものがあったが、紅葉や裸出した白い実（蠟として利用、野鳥の餌になる）が景観上美しく、支障木としない限り残すこととした。しかし実生については除去することとした。
- ・シンジュ（ニワウルシ）（中国原産）については、繁殖力が旺盛で生物多様性を阻害するため、伐採することとした。株からの芽生え、実生を含め除去することとした。
- ・トウネズミモチ（中国原産）については、小高木で茂り、生物多様性を阻害し、兵庫県ではブラックリストに挙げられているため、積極的に伐採除去することとした。

(3), トベラ、マサキ、シャリンバイ、ユキヤナギ、アベリア（園芸種）等低木等生育状況と管理

- ・低木類は、徒長枝を剪定するとともに、見通しを考慮して1m程度に刈り込むこととした。

(4), フジ等の蔓植物の生育状況と管理

- ・藤棚として植栽されているが、密生状態であるが、とりあえず徒長枝を剪定し、整えるとともに、藤棚を拡大するスペースを造る検討を行うこととした。剪定については11月以降とした。
- ・クズについては、秋の七草であり、昔は葛布、くず粉、葛切りなどに利用されていたが、繁殖力が旺盛で、生物多様性を阻害するため除去することとした。
- ・ヘクソカズラについては、低木林に侵入が見られるが、上層部を覆われない限り軽度の蔓切をすることとした。

(5), シナダレスズメガヤ、セイタカアワダチソウ、ヒメムカシヨモギ等侵略的外来種の除草

- ・四季を楽しむ花壇（フジバカマ、スマレ類、ヤナギハナガサ、ハーブ類等）を設置するとともに、生物多様性を阻害する侵略的外来種及び高茎草本類を除草することとした。



ケヤキとシャリンバイ

ソメイヨシノ

センダンとセイタカアワダチソウ



シャリンバイ

アラカシのヒコバエ

フジ棚



フジバカマ

ヤナギハナガサ

剪定除草後